文集「いわけしゅ 第4号」(抜粋)

昭和47年 登小学校文集から「いもひろい」の作文4編

『常呂町単複小学校(富丘・福山・吉野・登・日吉)文集 いわけしゅ』

「いもひろい」 田中恵

した。 10月8日、 沢田さんのおばさんやみきちゃんたちが、 いもひろいの手伝いに来てくれま

時間ぐらいすると、 わたしも9時ごろから畑に行きました。はじめのうちはあまりこわくなかったけれど、 とてもこしがいたくなりました。

ました。 みきちゃんは、「いよう」とすごい声を出して運んでいるので、 私も声を出してひろい

はやく動かしてひろいましたが、すぐ動かなくなり、みきちゃんに手伝ってもらいました。 みんなあせが出てくると、土のついた手ぶくろのままでふくので、顔中まっ黒です。 おやつを食べ終わって少し休むと、またすぐにはじまりました。 かあさんが。「あと1れつでおやつにするよ」と言ったので、わたしは機械ぐらい手を

もらい、ようやく運びました。 昼前の最後の1ぱいは、力がぬけて、ひとりで運べなくなったので、 あんまりつかれたので、かごによりかかると、かごがぐにゃっとまがってしまいました。 そのうちに手ぶくろがやぶけて、土が指先に入ってきて、とてもやりにくくなりました。 かあさんに手伝って

ひっくり返って休みました。みきちゃんもつかれた顔をして、「やめたいぐらいだ」と言 と言うので、しかたなしに畑へ行きました。昼からは、機械が回って来るまで、草の上に た。わたしはとうさんに、「もう、 っていました。 昼ごはんが終わってから1時まで休みました。1時になるとまた、みんな畑に行きまし いやだなあ」と言うと、「働かないとお金やらないぞ」

つで帰っていいぞ」と言いました。 わたしは、「早く終わらないかなあ」と思っていると、とうさんが、「めぐは、 わたしは、 「やれやれ終わったか」とためいきをつき あと1れ

「いもひろい」 川森修二

になったのを持ち上げようとしたら、重くて持ち上がらないので、母さんと2人で運びまっていました。かごが2つあったので、ぼくも急いでひろいはじめました。かごいっぱい いもがごろごろころがっていて、それをとうさんとかあさんが、いっしょうけんめいひろ 土曜日の午後、勉強が早く終わったので、いもひろいの手伝いをしました。畑につくと、

がまんしてひろいました。 とうさんが「おかし食べないか」と言ったけれど、すこしでも休むと負けてしまうので

いつきました。 とうさんとかあさんが休んでいるひまも休まないでひろったので、 ようやくみんなに追

伝ってやりました。かあさんと2人で運んだので、とても早く終わりました。 だいぶんつかれてきたので、やめて帰ろうと思ったが、かあさんがかわいそうなので手

家に帰るとちゅう、かあさんは、「つかれた、つかれた」と言いながら歩いていました。 あんまりつかれたふりをしないで歩きました。

「いもほり」 濱谷博美

ほりをすることになった。 おとうさんがかぜをひいてねているので、私がおかあさんといっしょにいも

キ・スコップをリヤカーに積んで畑まで引っぱって行った。 10時頃まで勉強をし、 11時頃に畑に行った。まず、いもを入れる肥料袋とバケツ・

ボンをまくってすぐ始めた。 畑に来るといもは4列半よりないので、「これならすぐ終わるだろう」と考えながらズ

においがする。 まいた種いもをひろってしまう。 がほったあとをひろっていく。小さい豆つぶみたいのまでていねいにひろう。時々、 といつ天気が変わるかもしれないので最後まですることにした。バケツを持ってかあさん しばらくすると暑くなってきた。 かあさんがスコップでほり、私がひろうことにした。始めのうちはちょうどよかったが、 にぎったしゅんかん、ピチャッとつぶれ、とてもいやな かあさんは、「今日は暑いね」と言ったが、 今日止める

がつかれたこしを伸ばしながら、「今年のいもは大きいね」と言うと、かあさんは「うん、 そうだね」と手を休めてうなずく。 だんだんつかれが出てきて、顔は汗だらけ、手はどろどろ、それでも続けてひろう。

もない所まで飛んでいってしまうのもあるので、 私は野球の選手にでもなった気持ちで調子よく投げ入れる。時々手もとがくるってとんで とにした。その内に、バケツでひろうのがいやになり、ポンポン投げ入れることにした。 の真ん中に集めて置きなさい」と言う。そこで真ん中あたりを足でふみかため、集めるこ その内に2枚の袋がいっぱいになってしまったので、「もう入らないよ」と言うと、「畑 またバケツで集めることにする。

こしを下ろして休む。 いよいよあと1列半で終わりという時、「少し休もうか」と言うので、急いで日かげに

力がわいてきた。後半はあっという間にひろってしまった。 ほんのちょっぴり休んだだけでまた始める。でもあと1列半だと思うと、 また

使った道具と袋を積んで家に帰った。 私は最後まで手伝いができて、 ほんとうによかったと思う。 かあさんは、「今晩、 しおににして食べようね」

「いもひろいの手伝い」 藤原伸幸

もう顔中汗だらけになってしまう。 とる。初めに、先おこししてある畑の真ん中のからひろい始めた。今始めたばかりなのに、 今日は朝からいもひろいの手伝いだ。 畑に着くと、きのう買ったばかりの新しいかごを

その内にいもほり機械を取りつけたトラクターが勢いよく走ってくる。 トラクターの通

ターが追いついてくる。 りすぎたあとに、ごろごろいもがころがっている。 いくら頑張ってひろってもすぐトラク

た子のいも、「これは何の形に似ているかなあ」と考えながらひろうとおもしろい。でも、 そんなことばかり考えていると、すぐトラクターに追いたてられる。 たくさんのいもの中に、いろいろな形のいもが出てくる。だるまの形・人の顔の形・ふ

ر کر だいぶ足が痛くなったころ、「あと2・3本したら昼だよ」と声がかかる。その声を聞 今までのつかれがふっ飛んで元気がわいてくる。

ようやく昼になる。「やれやれ」という気持ちでごはんをたべて少し休む。

よ」という声をきいて、とてもうれしくなる。最後は2倍の速さで、 ってしまった。 午後からはいやでしようがなかったけれど、 また前と同じようにひろう。「あと1本だ あっという間にひろ

んなに喜ばれるんなら、 夕ごはんの時、「今日は伸が頑張ってくれたので早く終わった」と、 もっと頑張ればよかったなあ」と思う。 父も母も言う。「こ